

商品名 診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麥1：1,000 添付文書情報

一般名	診断用アレルギーエキス注射液	薬価	4294.00
規格	2mL 1瓶	区分	
製造メーカー	鳥居薬品	販売メーカー	鳥居薬品
薬効	7. 治療を主目的としない医薬品 72. 診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 729. その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 7290. その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く）		

診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麥1：1,000の用法・用量

診断

通常本品0.02mLを皮内に注射し、15～30分後に発赤径20mm以上または膨疹径9mm以上を陽性と判定する。

【用法及び用量に関連する注意】

1. 正確な皮膚反応テストを行うため、皮膚反応テスト検査前日から抗ヒスタミン薬やメディエーター遊離抑制薬等の投与を中止すること。また、皮膚反応テストを実施する約1週間前から投与を中止することが望ましい薬剤があるので注意すること。
2. 反応が陰性を示したときでも、問診等から原因アレルギーとして特に疑われる場合には、日を改めて再検査することが望ましい。

診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麥1：1,000の効能・効果

診断

アレルギー性疾患のアレルギーの確認。

診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麥1：1,000の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：
 - 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：くしゃみ、蕁麻疹、血管浮腫、不快感、口内異常感、喘鳴、耳鳴等の異常があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。
2. その他の副作用：過敏症：（頻度不明）喘息発作の誘発、眼瞼浮腫又は口唇浮腫、発疹、そう痒等。

診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麦1：1,000の使用上の注意

【重要な基本的注意】

1. ショック、アナフィラキシー等の発現を予測するため、十分な問診を行うこと。
2. ショック、アナフィラキシー等の発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。
3. 投与後患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 神経質な患者：まず原則として神経質な患者の場合、乱刺（プリック）又は切皮（スクラッチ）法を試みてから皮内テストにうつることが望ましい（特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意する）。
2. 非選択的 β 遮断薬投与中の患者：検査のために本剤が投与されたときに、本剤による反応〈アレルギー反応〉が強くなる可能性がある（また、本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が通常の用量では十分発現しないことがある）。
3. 三環系抗うつ薬投与中及びモノアミンオキシダーゼ阻害薬〈MAOI〉投与中の患者：本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が増強されることがある。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、診断上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。但し、妊娠中はヒスタミン遊離が考えられる広範な皮膚反応テストは避けること（ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られている）。

【授乳婦】

診断上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

まず原則として小児等の場合、乱刺（プリック）又は切皮（スクラッチ）法を試みてから皮内テストにうつることが望ましい（特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意する）。

【高齢者】

- 1) まず原則として高齢者の場合、乱刺（プリック）又は切皮（スクラッチ）法を試みてから皮内テストにうつることが望ましい（特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意する）。
- 2) 検査に際しては注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：別途販売の皮内反応用対照液（診断用アレルギー皮内エキス対照液「トリイ」）を同時に用いて反応を比較すること。
2. 薬剤投与後の注意：投与部位のアレルギー症状が数日持続する場合がある。
3. 診断上の注意：原因アレルギーの特定に際しては、本剤による検査結果のみではなく、問診や特異的IgE抗体検査の結果等も踏まえて総合的に判定すること。

【保管上の注意】

2～8℃保存（凍結不可）。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.